

本 部 ・ 部 会 だ よ り

《青年部会》Family & Friends Day 2025 (10月26日於：パルめし山田 都立家政)



ご家族やご友人をお招きし、33名の皆さまとともに心温まる交流を楽しみました

《第14回 税の川柳コンクール》

応募作品(131点)から税制税務委員会の役員と理事の皆様に選考して頂きました。

- ・電子化で 親の求めで 顔合わす
 - ・副業で 税もスキルも 二刀流
 - ・ふるさとに 納めて届く 米と肉
 - ・みんなから 集めて築く 未来地図
 - ・税金を 納めて作る 世の未来
 - ・税の無駄 ここに極まる サンプルザ
- 《優秀賞》
《中野法人会 会長賞》
《税制税務委員会推薦による 中野法人会 会長賞》

第39回法人会 全国青年の集い(山梨) 音と光のフェスティバル



11月20、21日当会から佐野部会長始め8名参加



11月15日 (於：平和の森公園)

東法連 (第4ブロック 租税教室)



11月17日 佐野部会長・米持副部会長・吉永副部会長が参加(於：愛児の家)

“税の作文コンクール” 入賞作品

公益社団法人 中野法人会会長賞

【命を救う税金の恩恵】

中野区立明和中学校 3年 大野 澄伶

「救急車を呼んで!」

その言葉は数年前、母が弟に放った言葉だ。ある平日の小学校に行く準備をしていた朝、姉が急にお風呂の中でばたきと倒れた。意識を失った姉に血の気が引いた。“表彰式(12月3日 於：区役所内)”そしてサイレンを鳴らしながら救急車が到着し、完全に不安は除かれなかったものの、少しだけ安心したことを覚えている。



親族や友人、出かけた先の知らない人に救急車が必要になり助けを呼んだことがある、という人も多いのではないだろうか。救急車は緊急性の高い症状の人を病院へ運び命を救ってくれる、税金からの恩恵である。しかし、私たちが無償で利用できることは決して当たり前のことではない。

日本を含めて救急車を呼ぶことが無償である国は極めて稀であり、海外では救急車を呼ぶのに数万円もかかることがある。例えばドイツでは約2万円から7万円、アメリカでは約4万円、さらに手術が行われるなどした場合は100万円近くかかることもあるのだ。そういった場合、経済的な余裕がないと救急車を呼ぶことに躊躇を覚え、不本意ながら大切な人の命を危険に晒してしまうことがあるかもしれない。そういった点で、税金に救急車の費用を負担したもらうことは、私たちにとってためらうことなく助けを呼べるありがたいことだと言えるだろう。

その一方で、救急車を気軽に呼べるということには残念ながら問題点があるのだ。東京消防庁の令和5年度のデータでは令和3年度以降、出動件数が増え続け91万8311件となった。これは救急車が34秒に1回出動していることになる。そしてその膨大な件数の内軽症者が占めるのは54.2%、半分以上である。救急車の1回の出動には約4万5000円がかかるとされている。それはやはり税金から出されているもので、計算すると救急車に関することだけで、年間1億円以上必要のないことに税金が使われていることになるわけだ。本来、国民の生活を豊かにするための税金がこのような消費されることは税金の無駄遣いといえるのではないだろうか。

近年、日本では救急車を有料化すべきという声が多く上がっており、実際にいくつかの自治体では緊急性のない症状に費用を請求するなどの取り組みを行っている。導入することで不用意な出動が抑えられ、税金が無駄に使われることが少なくなるし、本当に必要な人へ出動しやすくなる。しかし、これでは有料である国と同じ問題が起きてしまう。

私は救急車が私の姉を助けてくれたように、全ての人の命を救ってくれるものであってほしいと考えている。税金はみんなのために使うものだから、必要な人へしっかり届けられるように一人一人が考える必要があるだろう。私も税金を無駄遣いせず、税金が私たちの生活を豊かにしてくれるものであるように考えて生活したい。